

地域における野生鳥獣被害対策の成果と今後の取組について

対策チーム名：飯伊野生鳥獣被害対策チーム

■タイトル (平成 27 年度) 下伊那地域における鳥獣対策技術と機材の活用

■地域名 下伊那全域

■内容概要

1 地域の概要

集落戸数		加害鳥獣	被害農作物等	備考
うち農家				
—	—	鳥獣全域	作物全般	

2 取組の概要

区分	内容
経過	補助事業等で機材や施設を導入する際、市町村においては導入経験のある物に偏りがちであり、新しい物の導入に関してはメーカー情報しか情報が無いことから導入へ踏み切れないなどの事例が見られる。市町村が協議会又は地元住民への情報提供をする場合などに利用できる様に情報を整理する必要性が出てきた。
取組内容	補助事業などで導入した機材、施設について、市町村担当者から出た意見をまとめ、効果的な機材の活用、効果をまとめた。 この結果は、今後の下伊那の情報交換会へ積極的に提供し、新しい情報を交換し、共有していく。(平成 28 年度以降)
成果	サルの囲い檻の導入により捕獲数が増えた。 市町村の相互の情報交換ができた。
農家等の方からのコメント	市町村毎に取り組んでいるサルの移動状況調査、カラスの移動状況調査なども積極的に情報交換する場を作ってもらいたい。

3 課題と今後の取組

- ・対策チームの中心的職員が全て異動したため、平成 27 年度のテーマである「情報の共有を行う場の創出」が実行されていない。
- ・市町村鳥獣担当者の多くが激務にあえいでおり、できるかぎり効率的に情報共有する仕組みが必要(会議を開き、大量の資料を作成する以外の方法で)
- ・平成 28 年度は、課題を解決する方法として、飯伊地区(あるいはさらに広域に)の SNS を活用した情報交換の場を作成し、担当者のみで構成するリアルタイムのネットワークを提案する。
- ・また、各地で実施する集落説明会等では、他の地域の役立つ情報を提供するようチーム全体で取り組む。

4 活動状況

(1) 集落支援状況

○鳥獣被害対策の技術的支援を実施している。(写真はH27.7.16 飯田市山本 地区)



(2) 視察による先進的な技術の導入検討 (写真は塩尻市センサーネットワーク)



(3) 狩猟者確保支援 (写真は飯田国際射撃場でのわな講習会)



(4) 南アルプス食害対策協議会の広域的な取組への参加 (写真はH28.6 準備活動)



伊那市、中部森林管理局、南信森林管理署、下伊那地方事務所、上伊那地方事務所などが参加